

注目の自治体施策

小浜市の芝居小屋
『旭座』復活への取り組み



外観

小浜市まちの駅
旭座がオーブン!!

5月1日、県内で唯一現存する明治時代の芝居小屋である旭座を拠点施設とする「小浜市まちの駅」がオープンしました。小浜インターチェンジ近くの「道の駅」、小浜港近くにあり御食国（みけつくに）若狭おばま食文化館がある「海の駅」に次ぐ3つ目の駅の誕生です。

ゴールデンウィーク期間中、土日祝日には3駅を巡るレトロ調バスも運行され、こけら落とし落語会、放生祭お囃子披露、文化祭りなど様々な催し物が行われ、市内外から約5万人が訪れ賑わいました。

明治時代の芝居小屋「旭座」を 移築、復原

「まちの駅」の中核施設の「旭座」は、県内で唯一現存する明治時代の芝居小屋です。

建物躯体の部材の多くが残されており、棧敷席や舞台の痕跡があり軸組みや痕跡が良好に残存しており、全国に3千以上あったとされる近代の芝居小屋が、現在では、30数箇所しか現存していないという希少性と港町として栄えた小浜の娯楽文化を象徴する建築物であることから、文化財的価値が高いと評価され、平成26年に小浜市指定有形文化財に指定されました。

今後も、旭座では、年間を通して、落語や映画、ジャズ公演等の市民提案によるイベントや、狂言、放生祭りのお囃子披露など、見応えのある多くの催し物が行われる予定です。また、近くには、「町並み保存資料館」や三丁町の「町並みと食の館」、「蓬嶋楼」などの歴史的建造物、神社仏閣史跡が多く存在する小浜西組重要伝統的建造物群保存地区があり、海風を感じながらの町歩きには最適です。



◆旭座の変遷

明治2年 旭座（前身の建物）を建築
 明治43年 旭座（現在の建物）整備
 昭和4年頃 映画館として営業
 昭和32年 自動車修理工場となる
 昭和39年 酒造店の倉庫となる
 平成26年6月 市指定有形文化財（建造物）となる
 平成27年6月 まちの駅に移築復原工事着手
 平成28年4月 竣工（総事業費 約2億5,000万円）



内観



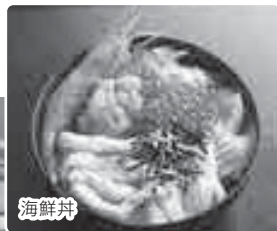
◆小浜市まちの駅 利用案内

【旭座】

- 開館時間
9時00分～22時00分
（見学時間10時00分～16時00分無料）
- イベント開催時は見学いただけ
ない場合があります。

【付帯施設】

- 観光情報・休憩コーナー
9時00分～20時00分
〈冬季・18時00分〉
- フードコート
11時00分～19時30分
〈冬季・17時30分〉



海鮮丼



フードコート

- 特産品等販売コーナー
10時00分～17時00分



物品販売

- レンタルサイクル
10時00分～17時00分
〈貸出16時00分まで〉

【休館日】

毎週火曜日
 （祝日の場合その翌日）、年末年始

【お問合せ】

小浜市まちの駅
 小浜市小浜白鬚11111
 TEL・077015212000
 FAX・077015212001

（文責）小浜市職員組合 水野伸治



勝山市で開催された全日本実業団大会の様子

地域一体の強化システムを確立

バドミントン王国、かつやま

ジュニアの強化

み、1980年代には全日本総合選手権大会を5度制覇するなど、日本のトップへと上り詰めていきました。

オリンピック選手 「山口茜」を輩出

福井県勝山市は、人口25000人にも満たない小さな市です。恐竜化石の発掘量が日本一で、世界でも有数の恐竜博物館がある勝山市から、今夏に開催されるリオデジヤネイロオリンピックに出場する選手が誕生しました。

彼女の名は「山口茜」。3歳からバドミントンをはじめ、小学生のときに出場した全国大会で優勝すると、その後次々と全国大会で優勝を果たし、もはや同世代では敵なしといった状態であった山口選手は、世界ジュニア選手権2連覇やインターハイ3連覇など、数々の偉業を成し遂げてきました。2013年のヨネックス・オープン・ジャパンを日本人初制覇し、2014年の全日本総合選手権大会も、弱冠高校2年生にして制覇し、まさしく日本一の称号を手に入れました。これは、勝山市出身選手としては長谷川博幸氏（日本バドミントン協会ジュニア強化部へ

ツドコーチ）以来27年ぶりの快挙となりました。

中学生ですでに日本代表入りを果たし、数々の国際大会に出場してきた山口選手は、昨年の5月から今年の4月までのオリンピックレースで着々とポイントを重ねていき、見事オリンピックの切符を掴み取りました。バドミントンでは福井県で初のオリンピック選手であり、また勝山市出身では、女子バレーボールの三屋裕子氏（1984年ロサンゼルスオリンピックク銅メダリスト）以来となります。

福井国体をきっかけに

山口選手が生まれ育った勝山市では、1968年の福井国体でバドミントン競技会場となったことをきっかけとして、競技熱に火が付いたと言われています。当時、

小学4年生だった長谷川氏は、体育館でトップ選手の素晴らしいプレーを目の当たりにしたことで、中学から本格的に競技を始め、その後、勝山高校、中央大学へと進

これまでに数々の名選手を輩出してきた勝山市ですが、1995年、勝山市バドミントン協会は、さらなる強化を図るためにジュニア強化事業をスタートさせました。この事業では、月に1回、各小学校単位のクラブから推薦を受けた選手が参加して合同練習会を行っています。その後、勝山市内のジュニア層が強化されていき、全国小学生大会で優勝する選手も出てきました。もちろん、山口選手もその1人です。

合同練習会で当初から指導にあたって勝山市バドミントン協会強化部長の三屋晃二氏は、「当初は、県大会を勝ち上がって北信越大会に出場することが夢でしたが、今では全国大会に出場することが当たり前というくらい、選手たちの目線や意識が上がっている」と話しています。

ところが、市内小学生の強化を図ったものの、その先の受け皿となる中学校において、当時はバドミントン経験のある顧問の先生がいないこともあり、選手たちの成

長が途切れてしまう懸念がありました。

勝山市バドミントン協会広報部長の上田健吾氏は、かつて長谷川氏が国体選手から刺激を受けたように、その長谷川氏から刺激を受けた一人です。上田氏は勝山高校を卒業後、日本体育大学に進み、帰郷して消防士となりました。全日本シニア大会で6度の優勝や元全日本ジュニアコーチの経歴を持つ上田氏は、「帰郷当初は中学校に競技経験のある指導者が少なく、小、中、高のそれぞれの段階に合



ジュニア強化練習会の様子

わせた指導が必要」と感じています。そこで、自身は現役を続ける傍ら、中学の部活を助ける形で2001年、勝山市全体の中学校を主体とするジュニアクラブチーム「勝山チャマッシュ」を設立しました。

クラブOBがその後 コーチに

勝山チャマッシュでは週に2回、勝山高校の体育館を使用して活動しています。設立当初は、上田氏ら数名のコーチ陣で指導にあたっていました。現在は勝山チャマッシュOBもコーチ陣に加わり、約20名の男子コーチ陣が指導にあたっています。

コーチ陣は、勝山高校バドミントン部の練習パートナーを務めるなど、高校生の指導にもあたっており、小学校から高校までの見事な強化システムが確立されているのです。山口選手も勝山チャマッシュや勝山高校で、一時代を築いた黄金世代の勝山チャマッシュOBに磨かれ、男子顔負けの超攻撃的スタイルを確立していくこととなりました。

地元の仲間たち

高校入学当初から日本代表として活動していた山口選手は、海外遠征などで学校を離れることも多かったのですが、顧問の先生やコーチ、そしてなにより仲間の支えがありました。山口選手自身も、そういった支えに対する感謝を常に持っており、それを象徴するようなエピソードを1つご紹介します。

日本代表としてオリンピッククルーズに出場している中、多くのポイントを獲得することができた重要な大会の1つであった世界選手権とインターハイの日程が重なっていました。オリンピックのためには、少しでもポイントを稼ぐために世界選手権へ出場する方がほとんどではないかと思いますが、山口選手は世界選手権への出場を辞退し、「仲間と団体戦で勝ちたい」とインターハイへの出場を決断したのです。自身のことよりも仲間のことを一番に思う山口選手の優しい気持ちに、感動した市民は多かったはず。す。

凱旋試合で市民も大盛り上がり

山口選手が勝山高校を卒業し、今井彰宏氏（勝山市出身）が監督

を務める再春館製薬所（熊本県）に入社して実業団選手となった今年、偶然にも地元勝山市で全日本実業団大会が開催され、山口選手もチームの主力選手として出場しました。この大会には、山口選手の他にもリオデジャネイロオリンピックに出場する日本代表8人が出場するとあって、多くの立ち見客がいるほど会場の体育館には多くの方が来場しました。

大会では、勝山の大きな声援を受けた再春館製薬所が、大会3連覇中の日本ユニシスを打ち破り、悲願の初優勝を飾りました。

また、2年後には福井国体が開催され、勝山市が再びバドミントン競技会場となります。山口選手もふるさと選手として、福井県チームの一員として国体に出場することでしょう。

今回の全日本実業団大会や福井国体の試合を目の当たりにした子どもたちから、第2の山口茜のような素晴らしい選手が誕生することを、大いに期待しています。

（文責）勝山市職員組合

櫻井光雄

（勝山市バドミントン協会 事務局長）

